

持続可能な「ふくし社会」を創る ふくし・マイスター News

ふだんのくらしのしあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう!

回ふくし・コミュニティプログラムとは?

日本福祉大学では、「ふくし・マイスター」の修得に向けて、すべての学部の1年生を対象にゼミナール等の演習科目に「ふくしコミュニティプログラム」を置き、地域と関わる基礎的な学習プログラムを学部ごとに行っています。プログラムを通じて、学生は地域への理解・関心を高めていきます。

【健康科学部リハビリテーション学科情報処理演習の中で行われた授業の様子】



6/8地域を知る・調べる視点を学ぶ



6/15地域のゲスト講師と関わる



6/22学んだことをまとめ、次の行動へ

回学習プログラムの特徴～5つの学習ステップ～

「ふくしコミュニティプログラム」は、5つのステップで地域への関心を深め、調査や発表を通して学習の方法を身につけていきます。地域課題を発見し、解決策について仮説を立て、共同で学びを深めていきます。そして、学習の成果をまとめて共有を行います。1年生の全員履修科目に組み込まれています。

—地域に関わる5つの学習ステップ—「ふくしコミュニティプログラム」



【各学部の1年生「ふくしコミュニティプログラム」該当科目一覧】

- 社会福祉学部 : 総合演習
- 子ども発達学部 : 総合演習Ⅰ、Ⅱ
- 健康科学部 : 情報処理演習(リハビリテーション学科)
環境共生入門(福祉工学科バリアフリーデザイン専修)
健康情報演習Ⅰ(福祉工学科健康情報専修)
- 経済学部 : 地域社会と共生、基礎演習Ⅰ
- 国際福祉開発学部 : 基礎演習Ⅰ
- 看護学部 : 基礎ゼミナールⅡ



ふくし・マイスター
動画をみてね!



社会福祉学部

春季セミナーで知多半島を中心にフィールドワーク



亀崎地区を案内するのは、日本福祉大学の市民研究員でもある老舗旅館望洲楼の成田一郎さん

5月15日(日)、16日(月)、に社会福祉学部の1年生全員が参加する春季セミナーが行われました。1日目には、知多半島を中心にクラスに分かれてフィールドワークが実施され、事前学習で学んできた地域を観る視点を活かして、地域を知り、地域に触れて、地域を学ぶ実践を行いました。

多彩なコースは地域連携コーディネータや教職員で企画され、半田市の5コース、知多市の2コース、武豊町で2コース、高浜市の1コースの計10コースで行われました。(中野)

※春季セミナーとは、1泊2日の宿泊型セミナーで、毎年入学後まもなくした時期に行われています。導入教育として「読む」、「書く」、「話す」の学習の基礎リテラシーを育み、仲間づくりなど複数の目的で社会福祉学部の1年生が18クラスに分かれて研修に参加します。

Field Study

【岩滑地区】大濱裕クラスは、半田市岩滑地区でフィールドワークを行いました。岩滑地区のコミュニティづくりの中核を担う施設である岩滑区民館を訪れ、岩滑区長の本間さん、やなべお助け隊長の森さん、ふれあいセンターの加藤さんから岩滑地区の重層的な組織による住民主体のまちづくりの話を聞きました。その後、NPO法人りんりんの学童保育所を訪れ、代表の下村さんから地域コミュニティと連携した福祉サービスの提供について具体的事例から学びました。(中野)



りんりんの学童保育所でフィールドワークのふりかえりを行いました。



コースを巡って、クラシティ半田3階のCラボ半田前で記念撮影。

【半田市中心市街地】下本英津子クラスは、半田市の市民活動の支援を行っているはんだまちづくりひろば職員の案内で、半田南区コミュニティに5月9日に開設された「サロン山ノ神」を訪れました。住民が自主的に支え合い活動を運営している現場を見学し、話を聞きました。その後、観光ガイドの案内で、江戸末期から海運で栄えた半田市の歴史や当時の様子を聞きながら、半田市の中心市街地を歩きました。学生たちは、住民が積極的にまちづくりにかかわっている様子を感じていたようです。(中野)

健康科学部

亀崎地区の景観づくりに一役



亀崎まちおこしの会が取り組む半田市空家対策モデル事業の一環として、地域と大学が協働しながら地域の問題解決に取り組むものです。6月23日(木)に、半田キャンパスでデザイン

中間発表が行われました。中間発表には建築家で亀崎の空き家対策に関わっている市川大輔にも参加いただき、「作製する際には、場所性・顧客の要望・エアコン室外機の性能の担保・デザインを考慮しないとイケない」とアドバイスをもらうことができました。室外機カバーは7月中旬に完成し、亀崎の通りに面した5軒のお宅に設置される予定です。(池脇)

健康科学部

新生セミナーで半田をまち歩き

4月5日(水)、健康科学部福祉工学科健康情報専修の1年生が半田のまち歩きをしながら、ユニバーサルデザインやアクセシブルデザインについて学びました。

まち歩きのコースは、旧中荻半六邸とミツカンミュージアム、JR半田駅、クラシティ半田です。今回は蔵の街エリアがまち歩きのコースだったことから、学生は同時に市民活動やものづくりの歴史、半田の観光についても学ぶことができました。クラシティに移動してまちなかで見つけた障害物を題材に、「今のデザインだとどのような人にどのような不都合が生じてしまうか」、「解決するにはどうすればいいか」などについて意見交換を行いました。地域に目を向けながら学んでくれる学生が少しでも増えることを期待しています。(池脇)



子ども発達学部

子どもの主体性を育む地域の親子造形教室を支援（江村和彦ゼミ）



地域の子どもたちと同じ目線にたって楽しむ江村ゼミの学生。

6月8日(水)、美浜キャンパスのCラボ美浜で、子ども発達学部の江村和彦准教授とゼミ生5名が、美浜町で造形教室を開いているアトリエカラフルの南川知美さんと連携して、親子造形教室を支援しました。この日は、美浜町の幼児から児童11名と保護者5名の16名が参加しました。今回の連携は、単にボランティア活動ではなく、今後は3か月に一回はこのような企画を定期的にお互いに考えていきたいとのことで地域のカウンターパートの南川さんと江村先生が話しあう中で決まりました。参加した学生は、「小学校低学年の異年齢を一度に見る機会はなく、一つ歳が違うだけで、こんなにやれることが増えるんだということを実感できて、いい勉強になった。」と感想を話してくれました。江村准教授は、「いろんな大人に会っているような造形や子どもとの関わりを知ってほしい。それが、今後の進路に役立つと思うので、多種多様な内容を盛り込んで展開していきたい。」と活動をまとめてくれました。（廣澤）

国際福祉開発

観光英語～東海市の観光資源の魅力を発見し英語で観光案内～（担当：山田さつき講師）



大田まつり保存会の方には、特別にからくり人形を見せてもらいました。

月曜日の1限は、国際福祉開発学部の地域志向科目「観光英語」が行われています。東海芸術劇場や大宮神社といった東海市内の観光資源をまとめ、最終的に英語で観光案内をするという狙いがあります。

5月2日(月)には、現役の通訳案内士である山田先生率いる25名が、東海市の魅力を学ぶべく、大田町の大宮神社と山車蔵を訪ねました。

6月6日は、英語で案内文を作って発表を行いました。学生たちは、大田まつりの山車が競い合うポイントや、神社でのマナー、お茶の作法や祭りの起源まで、自分たちが興味を持った様々な内容を発表しました。

学生たちはそれぞれの発表の後に、山田先生からアドバイスを受け、英語の観光案内をブラッシュアップしていきます。柔らかい言葉かけや、失礼にならない言い回しなど、通訳案内士としての目線で適切なアドバイスをしてくださる先生。聴衆が期待するのは、案内士自身の言葉でパーソナルな体験を一言添えることで、より魅力的な観光案内ができるそうです。（竹内）

経済学部

地域研究プロジェクト～地域課題の解決を通して、社会と関わる～

社会福祉学部



【東海市デジタルマップPJ】

7月4日(月)5限、経済学部地域研究プロジェクトの「東海市デジタルマッププロジェクト」(担当：遠藤秀紀准教授)の2回目の中間報告が行われました。プロジェクトでは、学生の視点で太田川駅周辺のデジタルマップを作成することに取り組んでいます。情報を収集する班と、情報をデジタル化する2つの班に分かれて取り組み、それぞれの班ごとに役割分担をしながら進めてきた成果が表れていました。この日は、外部のコメンテーターとして曲田学部長や経済学部4年生の臼井諒さんなどが参加をして、「誰を対象にして作成するか」「もう少しオリジナリティを出せるのでは」といった具体的なアドバイスがおこなわれていました。今後の展開がとても楽しみです。（中野）

【子どもプロジェクト】

6月22日(水)、大府市にあるあいち小児保健医療総合センターで、子どもプロジェクト(担当：新美晃代講師)のグループがボランティアスタッフとして参加しました。外来に来た子どもやその親御さんを対象にしたレクリエーション活動として「とんとん相撲」を保育士さんの指導のもと企画・実施しました。センターでは、子ども目線に立った病院づくりが行われており、医師の他にコメディカルと呼ばれる専門職スタッフが、活躍しているそうです。チャイルドケア担当の棚瀬さんからは、「すごく頑張って企画を考えてくれた一方で、企画することが目的になってしまったので、相手の目線に立つ実施できるとよかった」と前向きな評価をいただけたそうです。（中野）



日本福祉大学は、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」として、地域と連携をすることで、教育・研究・社会貢献の取り組みを展開しています。地域の拠点として、3つの「Cラボ」を設置して、地域連携を専門とするコーディネータが学生や教職員の様々な活動を支援しています。

Cラボ東海

東海市地域大円卓会議にむけてCラボ東海に集う



竹内綾コーディネータ

市民参加型の夢を語る場である東海市地域大円卓会議の今年度初の実行委員会が6月7日に開催されました。この日は、経済学部4年生の入山拓己さんや、東海商業高校の前校長の石濱登さんはじめ、行政やまちづくりに関わる有志が集まり、昨年度のふりかえりと、各自がこれから取り組んでみたいことを共有しました。今年も、11月22日(火)の夜に東海市芸術劇場多目的ホールで開催されます。



企画会議を行う有志のメンバー同

健康科学部福祉工学科の学生が亀崎中学校で講師を務める



中学生に大学生の1日のスケジュールについて話す学生

6月2日、半田キャンパスにほど近い亀崎中学校で中学1年生を対象とした地域学習が開催されました。この日は、地域の一員として福祉工学科バリアフリーデザイン専修の学生2名が講師として登壇し、大学生の1日のスケジュールや、大学で取り組んでいる研究について話をしました。中学生からは「大学生は時間の使い方がうまいんですね」という感想が返ってきて、普段関わりが少ない大学生のライフスタイルを伝える機会になっていました。

Cラボ半田



池脇啓太コーディネータ(右)と名倉弘二コーディネータ(左)

Cラボ美浜

第2回 知多半島フィールドワークEXPOに8つの地域団体が集いました。



廣澤節子コーディネータ

6月2日(木)、美浜キャンパスコミュニティセンター1階で、第2回知多半島フィールドワークEXPOが開催されました。今年は、美浜町の団体を中心に8つの地域団体が参加しました。アットホームな雰囲気で開催されたイベントは、地域団体と学生・教職員との交流だけでなく、団体同士の交流の場にもなっており、大学が地域課題解決にむけたネットワークづくりの中心的な役割を担っていました。今年も、どんな取り組みがうまれるのでしょうか。



美浜町グリーンツーリズムの取り組みに耳を傾ける社会福祉学部1年生

ふくし・マイスターレポート



※「ふくし・マイスター」の取り組みと一緒に参加したり、情報を発信したりしてくれる学生を募集しています。Cラボまたは、サービスラーニングセンターまでお気軽にお問合せください。

2016年6月11日(土)、アイアンマン70.3に国際福祉開発学部と経済学部の学生がボランティアスタッフとして参加しました。アイアンマンとは、世界で行われるトライアスロンレースの世界的大会です。

私は、選手を受付会場に誘導する担当をしました。説明会ごとに受付を行うために選手が次々にやって来るため、誘導したり、列を整えることが大変でした。また、外国人選手も多く参加するため、英語で対応することも求められました。ジェスチャーで対応したこともあったので、外国人選手も分かってくれたと思います。

今回、このボランティアをしてみても、笑顔で対応することの大切さを学びました。選手から質問をされても、慌てずに落ち着いて、笑顔で対応しなければならないと思いました。そして何より、英語力をもう少し身に付けたいといけなくて痛感しました。

Cラボアシスタント: 経済学部2年 出羽澤 雄太

